

# 「化膿性脊椎炎」

ただの腰痛だと思って放置していませんか。今回は「化膿性脊椎炎」についてお聞きしました。

**化膿性脊椎炎とは何ですか？  
脊椎と脊髄は同じもの？**

脊椎が細菌に感染して、破壊される病気で、化膿菌によって炎症がおこり、骨や椎間板が破壊されると、背中の痛みや手足の麻痺がおこり動けなくなります。結核菌によっておこる脊椎炎は脊椎カリエスとも呼ばれます。せぼねの骨の部分で脊椎、骨に囲まれた神経を脊髄といいます。化膿性脊椎炎は骨からはじまりますが、病気が進行すると、脊髄にも影響がおよびます。

**どうして今、注目されているのですか？**

脊椎は骨格のなかでも血行性感染のおこりやすいところ。かつて、結核が国民病であったころ、脊椎カリエスで寝たきりになり、命を落とす人は大変多かったのです。明治の俳人、正岡子規が「病床六尺」という随筆にあらわした苦痛と寝たきり生活。そして子規の命をうばった原因がこの病気です。抗結核剤の発見により激減しましたが、脊椎が細菌におかされる病気、脊椎感染症は決して

**細菌はどのようにして、血行性感染をおこすのですか？**

過去の病気ではありません。最近では、高齢者や糖尿病、癌など免疫力の低下した患者さんが多くなり、抗生剤の効かない耐性菌が増え、治療の難しい脊椎炎が再び増加してきました。

泌尿器疾患、婦人科疾患のほか胆嚢炎からの感染もあります。このほか、上気道からの感染や、静脈留置カテーテルなどの医療行為によって皮膚にいる常在菌が血行に入ることもあります。脊椎骨と

**どんな症状ですか？**

椎間板の境界部に細菌がくっつきやすい場所があり、血中を流れてきた細菌がつくと感染がおこります。胸椎と腰椎に多く、頸椎には少ないといわれています。

**治療はAntibiotic**

します。診断の確定には、病巣や血液からの細菌検査が必要で、時に針を病巣に刺して病巣を採取することもあります。

**どうして診断しますか？**

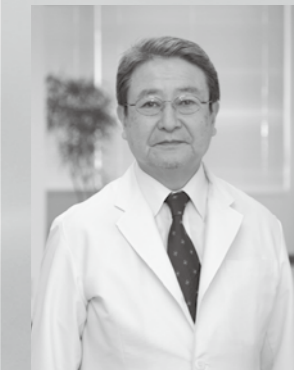
急性の場合には、腰背部の激痛、高熱を伴いますが、慢性の場合には痛みは軽く、発熱がなく、あっても微熱です。病気のある脊椎を叩いたり、押したりすると痛みを生じます。脊椎骨が破壊されたり、脊髄の周囲に膿がたまると、脊髄が圧迫されて脊髄麻痺を生じ、上下肢のしびれ、麻痺症状があらわれます。

MRIは重要です。単純X線写真で異常がみられない初期でも脊椎の変化や膿をみつけることができます。膿が脊髄を圧迫している状態もとらえることができます。血液検査では白血球の増加や、炎症の指標であるCRPの値が上昇

抗生剤によって、細菌をたたく全身的な治療。脊椎を保護するために歩行車や杖などの歩行補助具を使ったり、コルセットを使用する局所的な治療が必要です。炎症を抑えるためには安静が必要ですが、ベッドに寝たきりになると、とくに高齢者は起きられなくなるので、歩行補助具や装具を使って無理のないように動く必要があります。細菌と戦う体力をつけるため栄養も重要です。

抗生剤の治療は経口よりも注射や点滴が有効です。まれに、手術が必要になります。手術方法にはいろいろな方法がありますが、私たちが開発した二期的手術法は慎重な方法で、広範囲、全身状態不良、耐性菌(MRSA)などの悪条件に勧められる安全性の高い手術です。

## 今月の先生



岐阜市民病院 整形外科  
**清水克時** 先生

- 専門分野  
脊椎手術  
マイクロサージャリー  
脊柱側弯症
- 役職  
脊椎センター長
- 主な資格、認定  
日本整形外科学会専門医  
日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医  
日本リウマチ学会専門医

- 卒業年、主な職歴  
昭和48年京都大学医学部卒  
平成8年～25年岐阜大学整形外科教授  
平成18年～23年日本整形外科学会理事  
平成21年～日本小児整形外科学会理事長  
The Best Doctors in Japan®  
2012-2013  
The Best Doctors in Japan®  
2014-2015